

青年海外協力隊—マダガスカルに派遣

川崎 武彦さん
(阿久和・31歳)



現職教員特別参加制度を利用し、平成18年6月26日からマダガスカルのアナラマンガ県ベマスアンドル市に野菜栽培指導員として派遣。2年間の予定。

青年海外協力隊事業は、昭和40年から、国際協力事業のひとつとして、開発途上の国から、要請のあった職種や活動に対し、隊員を公募し派遣している事業。この、隊員の一人として川崎武彦さんが、マダガスカルに派遣されることになり、6月20日、南越前町役場を訪れました。

川崎さんは現在、福井県農業試験場に勤務。「中学の時の体験学習の中で、作物を作ることに興味を持ったことから、この道へと進みました。今回、野菜の指導ということ

で、アチムソラ又農業普及会に配属されます。野菜隊員への要請は、野菜の栽培技術はもちろん、農家経営全般について幅広い協力活動が期待されています。現地は、田も小さく、機械化も進んでいないことから、ちょうど日本の五〜六十年前のような感じかなと思っています。

実際に農家に出向き、野菜と稲作などの総合的農業、地域の農業経営の中での野菜栽培の作物の選定や農家について、一緒に学びながら、技術向上と所得向上を目指していきたいですね。また、現地の人との触れ合いを大事に、帰国後も隊員としての活動が続くようつながりを持っていくことができたら」と意気込みを話しました。

増澤町長は、「マダガスカルはアフリカですね。任務は大変だと思いがなかなか体験できないこと。健康に十分注意し若い力を発揮して、頑張ってきてください。そして帰国後の人生の糧となることを期待しています」と激励しました。

日独スポーツ少年団交流でドイツに派遣

岩崎 佐由美さん
(金粕・17歳)



日独スポーツ少年団同時交流事業は、活動の活性化と団員・指導者の資質の向上や地域間交流の促進を目的として実施され、今年で33回目になります。この事業に団員として派遣される岩崎佐由美さんが、7月10日、南越前町役場を訪れました。「今回、ドイツ派遣に参加しようと思ったのは、小学6年生の時に、県スポーツ少年団のリーダー会に参加して北海道に行ったことが自信となっていたからです。

海外に行くのは初めてです

南条バレーボールスポーツ少年団に所属。現在、高校2年生。スポ少活動に積極的でリーダー的存在。全国から90人が派遣される中で、福井県を代表して7月20日から23日間のドイツ交流派遣に臨む。

が、一緒に行く仲間がいるから不安はありません。

将来は保育士になりたいと思っていますが、外国人家族が増える近年、外国文化も学んでおいた方が園児や保護者とも接しやすいと思うので、ドイツではスポーツを通しての交流はもちろん、文化も学びたいです。

楽しみにしていることは、野菜を一切摂らず、お肉ばかり食べるというドイツでの食生活。そして、幼稚園から高校までの教育施設を回ることです。

ドイツのスポーツや文化、交流を通して得てきたことを、日本のスポーツ少年団で生かすことができるようがんばって来ます。」

快活で意欲的な岩崎さんに、増澤町長が「町、さらには県のスポーツリーダーとして活躍される基礎づくりをしてきてください」と激励のことばを贈りました。

